

資 料

ラグビー日本代表におけるスタッフアクティビティー ～1999 RUGBY WORLD CUP より～

稲 辺 功太郎

A study on Activities of Staff in Japan National Rugby Football team

—— A case study of 1999 Rugby world cup ——

Kotaro Inabe

1. はじめに

オリンピックと並び世界的なスポーツイベントとして、サッカーワールドカップ、サッカーコタカップ、そして世界陸上などが挙げられる。ラグビーワールドカップは、その規模から世界の3～4番手に位置するビックスポーツイベントとして評価するマスコミも多い。

さて、今回で4回目を数えるラグビー・ワールドカップが英国・ウェールズを中心に10月1日～11月6日の日程で行われた。1995年の第3回大会後の国際ラグビー・ボード(IRB)によるオープン化宣言以降、世界のラグビーは急速な発展を遂げている。南半球3カ国(ニュージーランド、南アフリカ、オーストラリア)、北半球5カ国(イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランド、フランス)はいち早くプロ化し、強化に力を注いでいる。また、カナダやアメリカのプレーヤーも、それらプロ化している国のチームでトッププレーヤーとして活躍している。注目したいのは、プレーヤーの報酬である。トッププレーヤーにな

ると、スポンサー収入なども合わせて億単位の金額になるといわれている。監督やコーチにおいても、自国のみならず海外のクラブあるいは、ナショナルチームで活躍している人も少くない。ワールドカップ開催国のウェールズや、ラグビーを国技としているサモアの監督は共にニュージーランド人である。日本には、外国人プレーヤーやコーチはいるものの、海外でプレーする日本人は一人というのが現状である。そのようなラグビー事情の中、1999年の第4回大会は、これまでにない大規模なものとなった。予選参加国は過去最大の70カ国で、世界104カ国にTV放映されている。

今大会において、日本代表には総勢20名のスタッフが帯同した。このことについて、大会期間中の共同記者会見において、ある新聞記者から、「20人の必要性」についての質問がなされた。これは、「20名という人数が単純に多い」、「従来より多い」ということだけに興味をもった質問であったようだが、多くのマスコミ関係者がこのような印象を持っていたようである。

このことは、現在のワールドスポーツのチー

ムスタッフ状況が、多くの人に十分に認識されていないことを物語っていると思われた。

そこで本稿では、実際に日本代表チームスタッフとしてラグビー・ワールドカップに参加し、体験したことを中心に、日本代表スタッフの役割とアクティビティーについて報告したい。

2. 大会概要

予選参加国は70カ国で(アフリカ地区9, アメリカ地区13, アジア地区8, ヨーロッパ地区32, パシフィック地区8) シード国は開催国ウェールズ, フランス, ニュージーランド, 南アフリカの4カ国で, 本大会に出場できるのは, 20カ国(今大会にはシード4カ国以外に, スコットランド, スペイン, ウルグアイ, イングランド, イタリア, トンガ, フィジー, カナダ, ナミビア, 日本, サモア, アルゼンチン, オーストラリア, アイルランド, アメリカ, ルーマニアが参加)。この20カ国を4つのプールに分け予選リーグを行い, 上位8チームで決勝トーナメントを戦う。

3. 参加スタッフについて

今大会では主催のIRBより予め, 「すべての参加チームに対して, 1チームのオフィシャル

スタッフは10名までとし, その10名の参加費はIRBが負担する」さらに「この10名だけが公式ゲームでのグラウンド内も含めてオフィシャル区域内への立ち入りが許される」などの通達がなされていた。したがって, 日本チームは, それ以外にエキストラオフィシャルスタッフとして7名, 日本国内外よりサポートスタッフとして3名をチームに帯同させた。そのスタッフ構成は, 表1に示したとおりであるが, このようなエキストラスタッフ派遣といった状況は, 参加国のほとんどで見られた状況でもあった。参考までに, 1998サッカーワールドカップ, フランス大会に参加したサッカー日本代表チームには, 約30名のスタッフが参加している。

4. スタッフの特徴とその役割

今回参加したスタッフの中で特徴的なのが, Technical Director, Media Officer, Baggage Masterである。日本ラグビーフットボール協会では, '97年に強化推進本部を設置し, 図1のように組織化した。監督, コーチなどが属するナショナルチーム部門と並列関係にあるテクニカル部門の責任者がTechnical Directorである。そして今大会には, その部門から6名のテクニカルスタッフが参加した。今大会での作業内容としては分析に関わるところが多いが, その6名の仕事内容は明確に分かれており, それ

表1 1999 RWC 日本代表スタッフ内訳

Official	EX. Official	Support
Manager Head Coach Asistant Coarch Technical Director Fitness & Conditioning coach Doctor Media Officer Trainer Baggage Master Interpreter	Technical 6名 Trainer	Asistant Secretary 2名 Dietitian

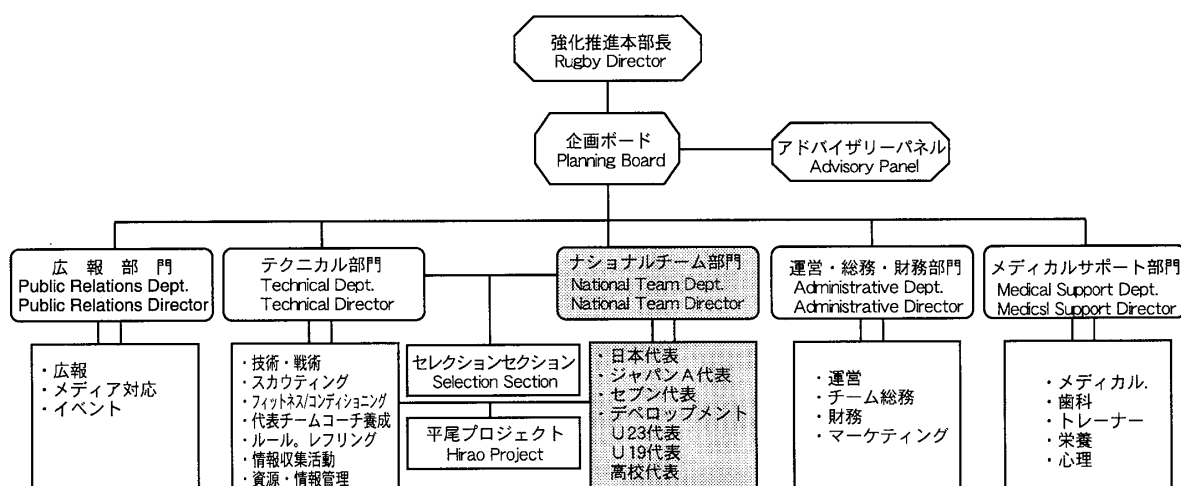


図1. 強化推進本部組織図

表2 テクニカルスタッフの役割分担

スタッフ名	役割
Technical Staff-A	技術戦術 (BK)
Technical Staff-B	技術戦術 (FW)
Technical Staff-C	分析 (自チーム, 相手チーム)
Technical Staff-D	分析 (自チーム, 相手チーム)
Technical Staff-E	分析 (レフリー)
Technical Staff-F	映像 (カメラ)

それぞれが責任をもって作業を行う。表2のように役割分担はされているが、それぞれの仕事内容について簡単に触れてみることにする。Staff-A, Bの技術戦術は、練習中や試合中の技術、戦術に関わることをアドバイスする。Staff-C, Dの分析はビデオなどから、自チーム、あるいは相手チームの特徴などを分析することで、Staff-Eはレフリーのレフリングの特徴について分析することである。Staff-Fは練習の内容をビデオ撮影したり、それらを元にビデオによる資料を作成する。また過去のビデオ(自チーム & 相手チーム)を編集し分析用のビデオを作成したりする。

総務的な部分を担当しているスタッフは5名であるが、この5名は宿舎内にオフィスを設け、そこで作業を行う。Media Officer, Interpreterは主にチーム外のことを、2名の Assistant Secretaryがチーム内のことについて担当してい

る。また Baggage Master は、用具をはじめ公式ジャージ、現地への土産にいたるまで、全ての備品等についての管理者のことである。また5名の総務スタッフの仕事内容は、表3のようになっている。表中のメディア対応、大会対応は Media Officer と Interpreter が行うが、それ以外のルーチンワークは2名の Assistant Secretary が主になって行う。表に記した事項はあくまでも日々の仕事内容であるが、総務スタッフの仕事は、団長、監督、コーチ、テクニカルスタッフをはじめ全てのスタッフとの関連性があるため、情報交換を密にしていなくてはならない。そのためにも、宿舎内にオフィスが設けられている。

Manager は団長のことで、チームの総責任者である。Head Coach は Assistant Coach とともにチームの指揮をとる。また、Fitness & Conditioning Coach は、練習前や試合前のウォーミングアップメニューを作成する一方で、プレイヤーのコンディショニング管理を、Doctor, Trainer とともに行う。Trainer はコンディショニング管理以外にも、練習前や試合前のテーピング、またケアとしてマッサージも行う。Doctor, Trainer は練習中や練習後、試合中、後のプレイヤーの体調管理も担当しておりストレッチやアイシング、水分補給などといったことも役割として持っている。また Dietitian は

表3 1999 第4回ラグビー・ワールドカップにおける日本代表スタッフの主な役割分担

担当部門	内容	担当部門	内容
CAOCH	練習内容	TECHNICAL	スカウティング
SECRETARY	トランスレート	〃	アナライジング
〃	情報収集（文書，TV）	〃	環境調査
〃	協会への連絡	〃	ミーティング関連全般
〃	チームニュース作成	〃	VTR 撮影
〃	チームインフォメーション作成	〃	記録
〃	日誌作成	MEDICAL	食事，食環境整備
〃	資料収集，整理	〃	体調管理
〃	金銭管理	〃	フィットネス関連
〃	記録写真	〃	ドーピング関係
〃	点呼	〃	水，水の手配
〃	メディアへの対応	〃	けが人報告
〃	外部からの対応		
〃	IRB 対応		
〃	リエゾン対応		
〃	貴重品管理		
〃	バゲッジ管理		
〃	ランドリー管理		
〃	バスの手配		
〃	メンバー登録		
〃	物品購入		

栄養士のことで，事前に現地シェフと打ち合わせを行い，メニューを作成し，大会期間中の食環境について担当している。

5. まとめとして

本稿はラグビー日本代表スタッフのアクティビティーについて，参加経験をもとに報告を試みたのであるが，今大会（第4回ワールドカップ）に参加し，特に変わったアクティビティーについても紹介したい。

第2戦以降を戦ったカーディフでは，地元の小学校から要請を受けて，総務スタッフ3名で学校を訪問。これは，校長先生がかねてから，子供たちに日本を紹介したいという思いがあり，ラグビーのナショナルチームが来てくれるなら是非ということで実現した。また，同じくカーディフで毎年行なわれる，ジャパンデーにも参

加。これには2名のテクニカルスタッフと3名の総務スタッフ，またプレーヤーも3名参加した。

本稿ではラグビー・ワールドカップに参加したスタッフについて，そのアクティビティーを報告したが，それぞれのスタッフが明確な役割を持って活動していたことを，表3のようにまとめた。また各スタッフが各自の仕事についてこだわりを持って，ワールドカップのみならず，これまで活動してきたことが同じスタッフとして知ることができた。

今回の経験をもとに，今後も様々な側面から，スポーツ（競技団体含む）の組織構造について調べていきたい。

謝 辞

最後に本稿を書くにあたり，本学助教授・勝田隆先生

には、資料の提供や多大なるご指導をいただきました。
厚く御礼申し上げます。

参 考 文 献

- (1) ラグビーマガジン別冊初夏号 ラグビーマガジン社 1995
- (2) ラグビーマガジン別冊秋季号 ラグビーマガジン社 1999

- (3) ラグビーワールドカップ'99ガイド 扶桑社 1999
- (4) 河野一郎 「球技系サポートプロジェクトの可能性」 Trainig Journal 10月号 14-16 1999

(平成 11 年 11 月 15 日受付, 平成 12 年 1 月 11 日受理)